

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597330020		
法人名	社会福祉法人 施福会		
事業所名	グループホーム みずき		
所在地	山口県熊毛郡田布施町大字宿井416-4		
自己評価作成日	平成28年9月27日	評価結果市町受理日	平成29年8月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さん一人ひとりの想いや出来る事を理解し、「普通の生活」を利用者さん主体で送って頂き、自然な形で家事などすることを通して、その人らしく生活できるよう支援しています。
 日中、地域の行事や外出など馴染みを取り入れた活動や、日々の散歩、個別レクリエーションを行っています。また、同じ空間の中でも個々にゆったりと過ごせる時間があったり、利用者さん同士、利用者さんと職員と一緒に笑顔で過ごせる場であるように環境づくりや雰囲気づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が種まきから苗植え、水やり、草取り、収穫まで関わって野菜づくり(白菜、玉葱、キャベツ、さつまいも、きゅうり、ネギ、春菊、ナス、トマト、ピーマンなど)をされたり、花壇づくり、干し柿づくりや漬け物づくり、食事づくり(買い物から後片付けまで)、洗濯物干し、洗濯物たたみ、部屋の掃除、習字、生け花など、職員は利用者一人ひとりがしたい時にしたい事ができるように場面をつくられて、喜びや張り合いのある日々が過ごせるように支援しておられます。玄関前のベンチとテーブルで気の合う利用者同士が過ごされたり、玄関や廊下のソファで家族と一緒に過ごされたり、共用空間の各所に机やイス、ソファ、衝立などでコーナーづくりをされて、一人でゆっくりと過ごされたり、一人ひとりが思い思いに過ごせるような居場所をつくられて支援しておられます。キッチン、リビング、トイレ、畑などの空間づくりを担当する職員を決めておられ、季節に合わせた飾り物や環境づくりに工夫を凝らして利用者が居心地良く過ごせるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や基本方針を事業所内に掲示している。毎月のミーティングにおいて理念を共有し話し合い実践に繋げている。日々意識して業務にあたりケアに迷った時には各自理念を振り返っている。	法人の理念と基本方針、事業所理念を事業所内に掲示している。職員間で話し合い、新たに「私たちはご家族や地域との絆を大切にします」という言葉を加えている。ミーティング時に理念を確認し、理念を意識づけるために日々の業務の中で理念に沿っているかを話し合い、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベント、どんど焼き、地域交流館、図書館、買い物など地域の方と交流を図っている。	町内の行事(消防出初め式やさくら祭り)や地域の行事(どんど焼き、ホテル祭り、公民館祭り、ボランティア祭りなど)に参加している他、小学校の運動会の見学に出かけている。図書館に本を借りに行ったり、月2回地域交流館に買い物に出かけて、地域の人と交流している。地域の人や利用者の家族から野菜や果物、米などの差し入れがある。法人主催の夏祭りや餅つきに地域の人が参加して交流している。傾聴ボランティアやアロマハンドセラピーの来訪(2ヶ月に1回)がある他、高校生の実習を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町が実施している認知症の会に出席をした。外部からの来訪者より認知症介護についての質問があれば実践していること、支援方法を説明している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全職員で記入し、ミーティングで話し合いを行いまとめた。前年度の外部評価での改善点を検討し改善に取り組んだ。	管理者は、職員に評価の意義を伝え、全職員で自己評価に取り組み、管理者がまとめている。自己評価することで気づいたケアの課題や支援のあり方について再度ミーティングで話し合っている。前回の外部評価を受けて応急手当や初期対応の実践力を身につけられるように研修や演習をしているなど、できることから改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を行い、運営状況や近況報告をし意見交換をしている。頂いた意見を実践し次の運営会議で報告を行っている。徘徊時に備えて連絡体制を整えている。	2ヶ月に1回会議を開催し、運営状況や活動状況など事業所の取り組みを報告し、意見交換している。認知症の勉強会や施設見学を実施している他、徘徊による行方不明時の地域との協力体制について話し合い、緊急連絡網を作成しているなど、意見をサービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者には情報交換や相談、助言を得ている。疑問があればその都度相談しながらアドバイスを頂いたり、事業所の実情や取組についても説明している。	町の担当者とは運営推進会議時に情報交換している他、電話や直接出向いて助言を得るなど協力関係を築いている。地域包括支援センターが法人内にあり、運営推進会議の他、日頃から事業所の実情や取り組みを報告し連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、施錠はせず利用者さんが自由に外へ出ていけるよう開放している。スピーチロックについて気になることがあればその都度管理者、責任者や職員同士が注意しあっている。	職員は身体拘束について内部研修で学び、職員は理解して、身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。玄関は施錠しないで、外に出たい利用者には職員と一緒に外へ出て支援している。スピーチロックや対応について気になることがあれば、その都度、管理者や責任者、職員同士が注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について内部研修を行い、職員間で虐待につながる言動を見逃さないように日々努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者にはおられない。権利擁護について研修を受けたり勉強会を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、サービスについて十分説明を行い、ご理解を頂いた上で、契約の締結をしている。改定の際にも書面上にて説明を行い承諾を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の窓口や第三者委員について契約時に家族への説明を行っている。ご家族には、月1回の便りにて様子を伝えたり面会時や電話で意見や要望を出しやすよう日頃より関係作りをしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。毎月の事業所だよりにより利用者の日常のひとまの写真を入れたり、面会時や電話時に日頃の様子を伝えて、気軽に相談できる関係づくりにつとめている他、面会に来た家族が行事の写真を自由に持ち帰れるように用意して家族が意見を言いやすいように工夫している。家族から居室の掃除について意見があり対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見や提案を聞く機会を設けている。法人内の代表者会議で事業所の意見を要望として提案できる場がある。	管理者は毎日のミーティングや職員の休憩時間などに職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で聞いている。利用者のサービス向上のため、業務内容に合わせて勤務時間を変更したり、休憩時間がとれるように改善するなど、職員の意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の引き上げや福利厚生の実施にて職場環境、条件整備に努めている。夜間長時間勤務の負担軽減のため、準夜勤・深夜勤を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は勤務の一環として受講している。全員参加には至っていない。内部研修は毎月ミーティングでその時々の課題をテーマに行っている。ケア技術については日々の業務の中で学び習得している。	外部研修は職員に情報を伝え、必要な職員に勤務の一環として参加の機会を提供している。今年度は5名の職員が受講し、研修内容はミーティングで復命している。内部研修は、ミーティング時にその時期に必要なテーマ(接遇・マナー、守秘義務、認知症の理解と対応、衛生管理、食中毒、応急処置・事故発生・緊急時の対応と訓練、感染予防と対策、感染者への対応、リスクマネジメントなど)で、職員が交代で資料づくりをして講師をつとめたり、管理者や法人看護師が講師として指導している。職員が働きながら知識や技術が身につけていけるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入をしている。勉強会などにできるだけ参加し交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に面談し、不安や思いをゆっくり傾聴する。またプランに添った具体的なケア内容を利用者担当を中心に作成し職員へ伝え安心なケアに繋げている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や困っていることはしっかり聞き取り、気になる時には何度でも面談する機会を持つようにしており、ご家族から安心して話して頂けるような関係づくりを心掛けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を職員間で共有し、本人やご家族が必要としている要望を見極め、対応できるよう努めている。グループホームとしての対応が難しい場合は他事業所や病院を紹介している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体であり、助けられている部分が多々ある。尊敬の念を持って接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来所された際に、ご家族へ近況報告をし状況をお伝えしている。家族の関わりで共に支えていく関係に心掛けている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の来訪や、外出の機会に自宅に寄り花を持ち帰ったり自宅近くを通ったりすることもある。地域の行事にも参加しこれまでの関係が途切れないようにしている。	家族の面会、友人や知人、近所の人、親戚の人の来訪がある他、年賀状や暑中見舞い、電話での交流を支援している。法人内のデイサービス利用者との交流、馴染みの美容院や喫茶店、図書館、交流館、スーパーに出かけたり、自宅近くをドライブし、自宅の庭の花を摘んで帰ったりしている。家族の協力を得ての外泊、結婚式や葬儀、法事への出席、地域の敬老会への参加、墓参りなど、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士の交流の場を広げたり、また状況を敢えて見守る事で利用者同士が優しく手助けする場面もある。支援の日々の積み重ねで自然に利用者同士で楽しく過ごせることができている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者さんへの見舞いや、退去のご家族へは写真をアルバムにしてお渡ししている。退去後のご家族が立ち寄ってくださることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの何気ない言葉や表情から気持ちや思いを汲み取り、個別記録に記入し、暮らし方や意向の把握をしている。定期的な会議においても本人らしくいられるにはどうしたらいいかが話の中心になっている。	基本情報や入居前アセスメントを活用している他、個人記録に日々の関わりの中での利用者の言葉や言葉にしづらい思いを行動や表情から汲み取り、職員の対応や視点を記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、会議の中で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前にフェイスシートを用い情報収集をし、入居後にも利用者さんやご家族や親戚、知人の方の会話から得られた情報を職員間で共有している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	環境を整え見守ることでその方の有する力が発揮できるよう支援している。日々変化する心身の状況を一日の生活の中で見逃さないように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の想いやご家族の要望をお聞きし、カンファレンスで職員間で共有した上で介護計画を作成している。利用者担当の職員を中心にケアカンファレンスを行い全体でケアプランを見直している。	本人の思いや家族の意向、職員の意見を参考にして、利用者を担当している職員が個別援助計画書を作成し、3ヶ月ごとのケース会議で全職員で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。個人記録に計画の実施状況を記録し、3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、計画の見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じてその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの気づきをケアプランに添って記録し、情報を共有している。利用者の情報変化や状況に応じ必要時にカンファレンスを行い介護計画の見直しに生かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に合わせた買い物など個々の要望に合わせた対応をしている。医療的緊急性の強い方に対してグループホームで出来る対応を確認している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや行事に参加したり本の好きな方と図書館に行ったり、馴染みの喫茶店に行くなど、個々に合わせた外出の場を通して地域と触れ合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が希望する病院をかかりつけ医としている。受診は家族や職員で支援しており、医師への情報提供や家族と情報の共有をしている。併設の法人施設に協力医が配属されており相談や往診が受けられる。	本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。受診は家族の協力を得て、職員が受診支援をしたり、家族に付き添っている。受診時には医師に情報提供をしている。利用者1名は専門医の往診を2週間に1回受けている。併設の法人施設に協力医が配属されており、事業所の相談や往診に対応している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は健康管理に努め、必要な際には、かかりつけ医や同法人内看護師に相談し指示を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に詳細な情報提供を行い、家族との連絡も行い早期に退院できるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が実際に重度化した場合、その都度、主治医や家族で話し合い、移設を含め、方針を共有している。	重度化した場合や終末期に事業所でできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、その都度家族や主治医と話し合い、移設も含めて方針を決め、支援に取り組んでいる。施設での看取りはしていない。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告に記録し、対応について職員全員が把握し一人ひとりが事故防止に取り組んでいる。起こりうる場面を想定しての応急手当や初期対応の内部研修を実施している。	事故が発生した場合は、その場で対応をした職員が事故・ヒヤリハット報告書に対応策も含めて記録し、申し送り時に話し合ったり、個人記録や連絡ノートに記録して全職員が閲覧できるようにし、カンファレンスで話し合っ、一人ひとりの事故防止に努めている。法人で救急救命の講習を受けたり、内部研修や法人看護師の指導で誤嚥時のタッピング法や意識消失時の対応、嘔吐物の処理方法など応急手当や初期対応の訓練を行っているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て日中・夜間想定した火災時避難訓練や消火器の使い方を実践している。地域との協力体制として運営推進委員にも訓練に参加して頂いている。	年2回、日中、夜間を想定した火災避難訓練、消火訓練を消防署の協力を得て実施している。1回は運営推進会議に併せて地域メンバーの参加を得て実施している。法人施設が地域の災害時避難場所となっており、法人は地域との協力体制を築くように取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持って接している。個々の性格やプライバシーに対する感じ方の違いを把握し、常にそれぞれに合った声掛けや対応をしている。	内部研修で接遇、マナー、守秘義務などについて学び、職員は利用者へ尊敬の念を持って接しており、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	工夫しながら本人の思いが表現できるよう耳を傾ける。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思いや気持ちを把握し利用者さん本位に、その人らしくいられるための環境を作る努力をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や化粧、外出時には外出着に着替える等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、準備から片づけまで個々の能力に応じた事をして頂いている。また、得意料理を持っている利用者さんには持っている力を発揮して頂いている。畑で採れた野菜や季節の素材を使ったメニューを取り入れている。	三食とも各ユニットごとに食事づくりをしている。夕食担当職員が3日に1回利用者と一緒に食材の買い物に行っている。献立は利用者の希望を取り入れ、畑で採れた野菜(白菜、玉葱、ねぎ、春菊、さつまいも、きゅうり、なす、さやえんどう、トマト、ピーマン、キャベツなど)、地域の人からの差し入れの野菜、地元業者からの購入食材など新鮮で旬のものを使用して、季節感を味わえるように工夫して調理している。利用者は野菜の下ごしらえや味付け、盛りつけ、配膳、下膳、食器洗い、食器拭きなど準備から片付けまで一人ひとりができることを職員と一緒にしている。利用者と職員は会話を楽しみながらテーブルを囲んで同じものを食べている。おせちや雛まつりのお寿司、ソーメン流しやバーベキュー、おはぎ、クリスマスケーキなど季節の食事を楽しんだり、毎月のドライブで外食したり、お弁当を買って戸外で食べたり、食事を楽しむ機会をたくさんつくって、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減、水分、食事、排尿など表でチェックし、体調に合わせて調整をしている。栄養面に不安の方は同法人栄養士にアドバイスをもらっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後している。習慣づける声掛けの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、水分量の関係をみながら支援している。声掛けや誘導の必要な方にはさりげない声掛け等により不快にならないよう配慮している。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排泄確認をし、薬の調整、運動、食事、水分等を相談しながら、自然な排便に繋がるよう支援している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の都合になってしまう事もあるが個々に合った時間帯を考え入浴して頂いている。一人ひとりの性格を把握、入りたくなるような関わりや声掛けを行い入浴を楽しんで頂けるようにしている。	入浴は毎日、14時から17時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて2日に1回は入浴できるように支援している。午前中に入浴する人もいる。利用者の体調や状態に合わせて足浴やシャワー浴、清拭での対応をしている。柚子湯や入浴剤を使用して色や香りを楽しんでいる。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握しメリハリのある生活ができるよう環境を作っている。昼夜の区別がつくように照明等の工夫をしている。夜間は、十分な睡眠ができるよう、照明や室温調整を個人に合わせて対応している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報や変更については全職員がすぐ見れる場所に置き瞬時に理解できるようにまとめている。症状の変化が見られた時は、詳細な記録を取り速やかに主治医に連絡を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作りや外出、縫物、漬物作り等個々に応じた得意な事や楽しみやが持てるように支援している。家事支援に関しても個々の生活や出来る事を考え対応している。	テレビやDVD視聴、新聞、本、雑誌、日記をつける、年賀状、暑中見舞いを書く、漢字、計算ドリル、ちぎり絵、塗り絵、折り紙、ラジオ体操、リハビリ体操、習字、生け花、お茶、編み物、繕いもの、雑巾縫い、洗濯、洗濯干し、洗濯たたみ、食事の準備から片付け、掃除機、モップかけ、庭掃除、布団干し、野菜作り(種まき、苗植え、水やり、草との、収穫、)、花壇づくり、干し柿づくり、漬け物づくりなど一人ひとりのできることやしたいことを把握して、したいときにしたい場面を設定して活躍できるようにし、利用者が喜びや張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物同伴は3日に1回あるがそれ以外での外出は職員側の都合で個人の要望に十分応えられていない。毎月1回全体での外出支援は行っている。	事業所周辺の散歩やスーパーや地域交流館での買い物、図書館に出かけたり、地域の祭り(ホテル祭り、ちょうちん祭り、普賢祭りなど)への参加、季節の花見(梅、桜、芝桜、バラ、コスモス、紅葉など)、みかん狩り、梨狩り、動物園、フラワーランド、海水浴等のドライブなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、受診等お金の管理が支援できている利用者さんには必要に応じて管理して頂いている。週1回移動パン販売の買物をされる方もおられる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常の中で字を書くことは少ない。暑中見舞いや年賀状など家族のことを思い出しながら書けるよう支援している。ご家族との電話のやり取りは希望に応じ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんと共に日々掃除をしたり飾りつけを行っている。共同生活の場は音や光落ち着く場所を常に考えて工夫している。デイルーム空間作り担当を決め、話し合いを重ね工夫できている部分と今から改善していく部分がある。物の位置は固定せず状況に合わせて替えている。	共用空間は自然の光が差し込んで明るく広々としている。テーブル、イス、ソファ、長いす、テレビなどを配置している他、玄関前にベンチとテーブルを置いて気の合う人同士が過ごしたり、玄関や廊下にソファとテーブル、お茶セット、雑誌などを置いて、家族と一緒に過ごしたり、共用空間に机やイス、衝立などを設置して一人や少人数でくつろげるコーナーをつくっているなど、各所に利用者の居場所づくりをしている。玄関やリビングのテーブルに季節の花や果物のオブジェを飾ったり、壁面に利用者と職員がつくった季節の飾りを飾って季節感を取り入れている。リビング、トイレ、キッチンなど、それぞれに空間づくりを担当する職員がおり、環境に配慮したり、季節に合わせた飾りを工夫したり、温度、湿度、換気に配慮して、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をして支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や椅子を置いたり、死角ができるよう家具を使ったり、人を感じながら、一人で過ごせる場所作りをしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の中で過ごしていけるようご家族に協力して頂いている。またその人にあった空間作りも必要に応じ行っている。	本人や家族の意向を聞きながら、タンスやテレビ、布団、時計、鏡、衣装ケース、ハンガーラック、化粧品、観葉植物、本や雑誌、抹茶道具など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、思い出の写真や自分の作品や花、ぬいぐるみ、カレンダー、家族からの手紙などを飾って利用者が落ち着いて過ごせるようなその人に合った居場所づくりをしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りながら出来ることが継続していけるよう自発的にできる環境を作っている。車椅子の方でも自力で移動できるよう障害物や物の位置の工夫をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム みずき

作成日: 平成 29 年 8 月 15 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	急変時や事故発生に備えて定期的な内部研修は行っているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけ、介護現場で起こりうる、骨折や火傷、外傷、誤嚥、血圧変動など慌てずに対応できる。	消防署による救命救急講習を受講する。また、看護師指導による応急手当や初期対応の内部研修を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。